

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第1問

問 3 ヒカルさんたちは、地球温暖化と酸性雨の影響について調べた。次の図3中の地点サ～セの周辺における地球温暖化もしくは酸性雨の影響について述べた文として適当でないものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

3

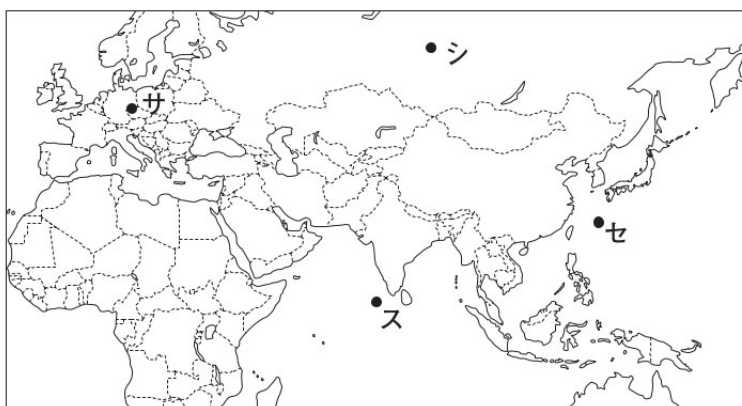


図3

- ① サの周辺では、質の悪い化石燃料の燃焼によって生じた物質が雨に混じり、樹木の立ち枯れが起こった。
- ② シの周辺では、氷河の融解によって形成された氷河湖が、さらなる気温の上昇によって決壊すると、下流に洪水の被害をもたらすおそれがある。
- ③ スの周辺では、海面上昇により地下水層へ海水が流入したり、海岸侵食によって低平な土地が水没するおそれがある。
- ④ セの周辺では、海水温の上昇によるサンゴの白化現象がみられ、サンゴが死滅するおそれがある。

【ポイント】

正解:②

正答率は26.1%ときわめて低い結果でした。この設問では、最終氷期最寒冷期(約2万年前)のユーラシア大陸における氷河分布の基礎理解が問われていました。寒冷で降水量の少ないウラル山脈以東のシベリアでは、一部の山岳部を除いて氷河の発達が悪く、ウラル山脈東側のシ周辺は西シベリア低地であるため、山岳氷河も存在しません。したがって、②の「氷河の融解によって形成された氷河湖」は分布しない地域であり、誤りと判断すべき選択肢でした。

本問で受験生は、ス(モルディブ)に関する③が33.8%、サ(ドイツとチェコ国境付近)に関する①が23.6%、セ(南西諸島)に関する④が16.3%と、正答よりも③の選択率が高い状況でした。これは、受験生が「氷河湖」という語に引きずら

れ、氷河そのものの分布を基礎から考えるという思考に至らなかったためと考えられます。

この設問に限らず、地理の問題で求められる思考の流れは、まず「問われている事象の基礎的事項」に立ち戻ることです。②の例でいえば、鍵となるのは「氷河湖の分布」ではなく「氷河がどこに発達したか」であり、寒冷さだけでなく降水量や地形条件を踏まえて氷河分布を理解していれば、正答に到達できたはずです。

受験生に「あと45日で押さえるポイント」として強調したいのは、複雑な語や図表に惑わされず、まず基礎概念に立ち返って、何を手がかりに思考するかを正しく選び取る姿勢です。